

教育実習レポート

[市立 S 中学校 英語]

氏名：Y.N

1. 教育実習を経験して

私は大阪府にある S 中学校で教育実習をさせていただきました。中学二年生の英語を担当させていただきました。実習では、大学では決して経験することの出来ないことをたくさん学ばせていただきました。

1-1. 教育実習で苦労したこと

実習では苦労の連続でした。最も苦労したことは、わかりやすい授業をすることです。子供たちは素直です。難しい、と思ったら寝てしまう生徒や、作業をしなくなる生徒もいます。いかに面白い導入をするか、興味深い教材を使うか、わかりやすい説明が出来るか。どんな風に生徒の興味・関心を引き、それを持続させるのか。どの先生方も苦労され、様々な工夫をされておられると思います。だから色々な先生方の授業を見せていただいたり、本を読んだり、話を聞きに行ったり、常に学び続けたいと強く感じました。いつか生徒が「寝るのがもったいない！英語ってこんなに面白いんだ！」と、目を輝かせる授業がしたいです。実習中は、少しでも子供たちが理解しやすい授業をするために、生徒たちにとって身近な例を使う、視覚教材を使用する、先生方にその単元の子供たちのつまずきポイントを聞く、先生方に自分の授業を見てもらい、ご指導いただきました。また、一斉授業では指導しきれない分、子供たち一人ひとりに個別指導をして、関わりを持ち理解度を見ることも大切だと感じました。同様に、生徒の提出物も言葉と同じくらい、生徒の気持ちや理解度を物語っていることもあり、提出物の点検も勉強になりました。生徒一人一人がどんな気持ちなのか、生徒目線に立った指導が授業作りをする上で大切だ、と感じました。

1-2. 教育実習で嬉しかったこと、感動したこと

この教育実習では、教師になりたいという気持ちをさらに強めてくれる、嬉しいことが多々ありました。私は実習中の目標として、全生徒と挨拶し、会話することを挙げていました。朝から校門前に立って行う挨拶運動や、普段学校内で出会った生徒たちに自分から挨拶することを心掛けました。結果、たくさんの生徒と挨拶や話をする事が出来ました。私は中学二年生の 4 クラスの英語の授業を担当させていただきましたが、異なる学年の授業も積極的に見学させていただきました。一年生、二年生、三年生とみな学年の持つ雰囲気異なり、個性豊かで会話するのがとても楽しかったです。子供たちの成長を日々近くで支えることの出来る教師という仕事は素晴らしいな、と強く思いました。また、授業中、生徒が優しい言葉で励ましてくれたり、助け舟を出してくれることがありました。教師は「教える」ばかりだと思っていました。しかし実際は、子供たちに助けられることも多い、と知りました。生徒たちからも多くのことが学べるので、教師になっても謙虚に周りの人や子供たちから学び続けたいです。そして授業の最終日には貴重なテスト前の勉強時間をいただき、生徒たちに私の思いや考えていることを伝えさせていただきました。内容は三つに分けて話しました。まず生徒たちに英語を一生懸命勉強してほしい理由、二つ目にカナダへの留学で学んだこと、そして自らの交通事故の経験から気づいた命の大切さでした。普段は授業中立ち歩いたり、私語の多い生徒も静かに聞いてくれました。自分の本当の思いを飾らない言葉で情熱を持って伝えると、相手にも届くのだ、と感動しました。教師として働くうえで、こんなことを生徒に伝えたい、という熱い一本の軸を持って行動していきたい、と感じました。

2. 教育実習を通じて学んだこと、感じたこと、考えたこと

教育実習で最も感じたことは、「教師としての自覚」でした。大学で学んでいるだけでは決して感じる事の出来ない感覚でした。教師は全ての言動が子供たちの手本となります。そういうことを実際に授業させていただいたり、先生方と子供たちの関わり合いを見ることで実感出来ました。例えば、板書の漢字の書き方一つ取っても、生徒はそれを手本にします。他に授業中の言葉遣いも試験に書いても誤りとされないような、きちんとした話し方が求められました。また、指導教諭に「教師の気持ちは生徒たちに影響する。だか

ら、先生がしんどくても、元気な表情や言葉で子供たちに接するように。」とご指導いただきました。教師に元気があると、生徒も元気になるのです。このことから、教師は子供たちに大きな影響を与えるのだ、ということを実感しました。そのことを実感して、教師の仕事はまるで子供たちの無限の可能性を秘めた真っ白なキャンパスに、色んな色の絵の具を塗っていくような、やりがいと同時に、その責任の重さを自覚しました。

3. 将来なりたい教師像

教育実習を経て、英語教師として子供たちに英語の楽しさを伝え、英語が好きな子供たちを一人でも増やしたい、と強く思いました。実習中出会った子供たちは英語って覚えることが多くて大変だし、難しいといった印象を持っていることが多かったです。どんな勉強も工夫次第で楽しくなります。教師になったら、授業を大切に子供たち自らが英語でコミュニケーションを取りたいという、英語コミュニケーションへの積極性を育成したいです。そのためにまずは教師である自分が英語の楽しさ、面白さを言葉で伝えたり、心から英語を楽しむ姿勢を子供たちに見せて一緒に楽しんでいくことが大切だと考えます。さらに色々な先生方の授業なども見学して、生徒の興味・関心を引いて、それを持続させることが出来る授業を作りたいです。

また、教科を越えた理想の教師像は常に優しく、強い先生です。優しく、とはカウンセリングマインドを持って生徒の心に寄り添うことです。子供が嬉しい時、悲しい時、振り向けば絶対そこにいるような、子供たちが安心して物事に挑戦していけるような安心感を感じてもらえる教師を目指します。そして、強く、とは叱らなければならない時は、心を鬼にして叱り、けれども握った手は決して離さない、そんな強さを持った教師になります。

以上のように、私は将来、優しく、強い心で生徒たちの成長を支援しながら、英語で積極的に話そうとする、生き生きした子供たちを育てたいです。